

梧桐会総会開催 5月11日(日) 於・大崎高校

梧桐会報

第43号

平成9年4月1日発行
発行所

梧桐会

事務局・東京都大田区多摩川
2-24-6-615 渡部良彦
TEL/FAX 03(3756)7114

編集人 渡部良彦
印刷所 日正印刷

ご挨拶



梧桐会 会長
川村 治

桜前線も北の方へ去り、本格的な初夏を思わせる季節となりましたが、梧桐会会員の皆様には如何お過ごしですか。大崎高校も今年で創立85周年を迎え、懸案となっておりました都道補助二六号線の学校敷地内通過にともなう新校舎の建築計画も、この六月より着工の運びとなりました。平成十一年には免震構造を取り入れた素晴らしい校舎が出来上ります。梧桐会員の皆様にもぜひ期待して頂き、又ご支援頂きたいと願っております。

それとは逆に、大変残念なのは、学校正門を入った付近にありました立派なヒマラヤ杉が、建築に支障ある為伐採撤去されてしまう事です。樹齢はよく分かりませんが、何十年もの間、大崎高校在校生を見守ってくれていたヒマラヤ杉です。移植も検討してみましたが、なにもふんにも大きな樹木の為、不可能の事。誠に残念でなりません。

今年の梧桐会総会が見納めとなります。ぜひ一人でも多くの会員の方々に、最後の雄姿をご覧頂きたいと思っております。

又、今年度より同窓会事務局を設置させて頂きました。従来は会員皆様方の住所変更の受付を学校に代行して頂いておりましたが、これからは別掲の事務局宛、皆様方のご意見も含めご連絡をお寄せ下さいませよう、よろしく御願

い申し上げます。今年も梧桐会総会を五月十一日(日)に左記の通り開催致します。総会は同窓会設立以来毎年母校にて開催して参りましたが、近年学校側の事情も有り、毎年5月の母の日に大崎高校にて開催する事が厳しくなっております。開催場所、日時の再検討も今後必要となるものと思われま

会員皆様方のご意見をぜひお聞かせ願えればと思っております。

日	時	5月11日(日)
		12時30分(受付開始)
		13時~16時
会費		500円(新卒者は無料)
プログラム		会長の挨拶 学校長の挨拶 その他

新幹事(8年度卒)	
A大宮 弘丈	木暮 花子
B中里 裕昭	藤原 さち
C高橋 洋一	湯山加奈子
D松橋 尚寛	内藤 洋子
E細野 大	小金澤早織
F片山 雄介	佐々木篤子
G秋元 龍馬	穂積 由香
H佐藤 久	佐々木 恵

校舎改築について

全日制 校舎改築委員長
芦澤 正則

梧桐会の皆様、校舎改築工事のための準備作業がやっと始まりました。

私は、校舎改築の責任者として改築の作業が始まったことを、やっと皆様へ伝えることができてほっとしております。私も改築の責任者として、かつて考えられていた都道補助26号線の地下通過案、トンネル案など記録をたよりに勉強させていただきました。このような案が考えられたのが昭和56年頃の事です。昭和三十九年、PTA、教職員方が苦勞された時代から、すでに20年になろうとしています。その間様々な方々のご尽力によって、今年度から人工

地盤のグラウンド、7階建の校舎改築が始まることになりました。

今日、梧桐会総会にご出席なされた皆様方には、ロータリーにあった昭和50年に梧桐会より寄贈された記念樹の「枝垂桜」の姿が見えないことに気付かれた方も多々あります。準備工事として、6月からはいよいよ都道補助26号線を延長した搬入道路、A棟からB棟・体育館へ連絡する渡り廊下の工事のため、体育館西側への3月に移植いたしました。

さて、本校の校舎改築の概要について、簡単に紙面を借りて述べさせていただきます。

- (1)現在の校庭に7階建の全館空調の校舎を建てる。
- (2)阪神・淡路大震災を教訓として、都立高校では初めての免震構造を取り入れる。
- (3)グラウンドに校舎を建てるため三ツツテリアル跡地(下神明駅から数分)のグラウンドを借りる。
- (4)新校舎では、現在の校舎の位置に人工地盤のグラウンドをつくる。

この基本構造に基づいた完成予想図を載せておきました。このような基本構想のため、改築まで本校はプレハブ校舎をつくらないで、現在の校舎が使用できます。

プレハブ・新校舎への移動など煩わしい点が少なく、改築中でも落ちついた授業ができるのではないかと思います。また、校舎改築中グラウンドを借りるため、体育の授業や運動部の部活動では、移動の不便はあっても活動に支障をきたさない点が恵まれています。

渡り廊下を含めた準備工事、校舎の改築工事は平成11年11月に終わります。平成9年度新入生が、3学年になった年の11月に新校舎へ引っ越しができることとなります。

その後、人工地盤等の工事に入ります。

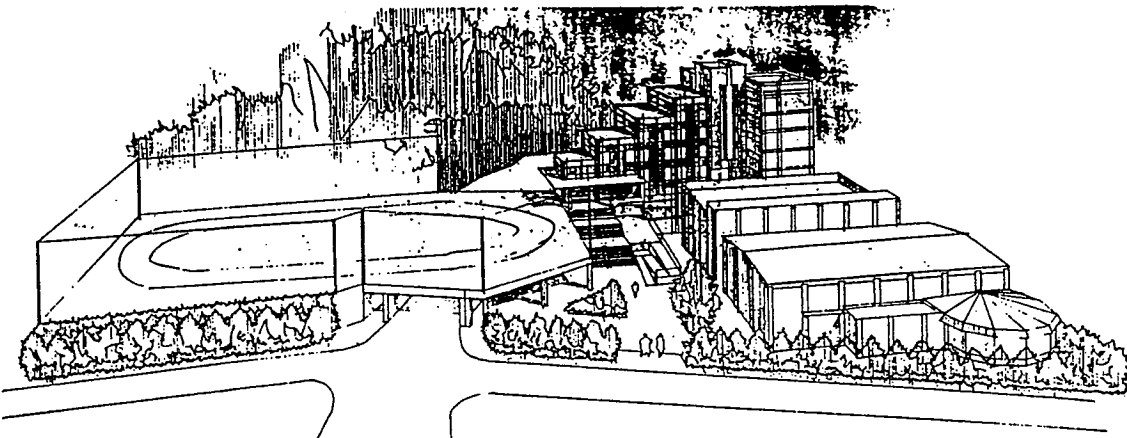
今回、詳しくご報告させていただいたような改築の構想が生まれてきたのは、阪神淡

路の大震災の教訓をいかすことができる建築技術の進展等があったと考えておりますが、大崎高校を支える梧桐会の皆様のご支援が、やっとこまごこつてきた大きな力になりました。

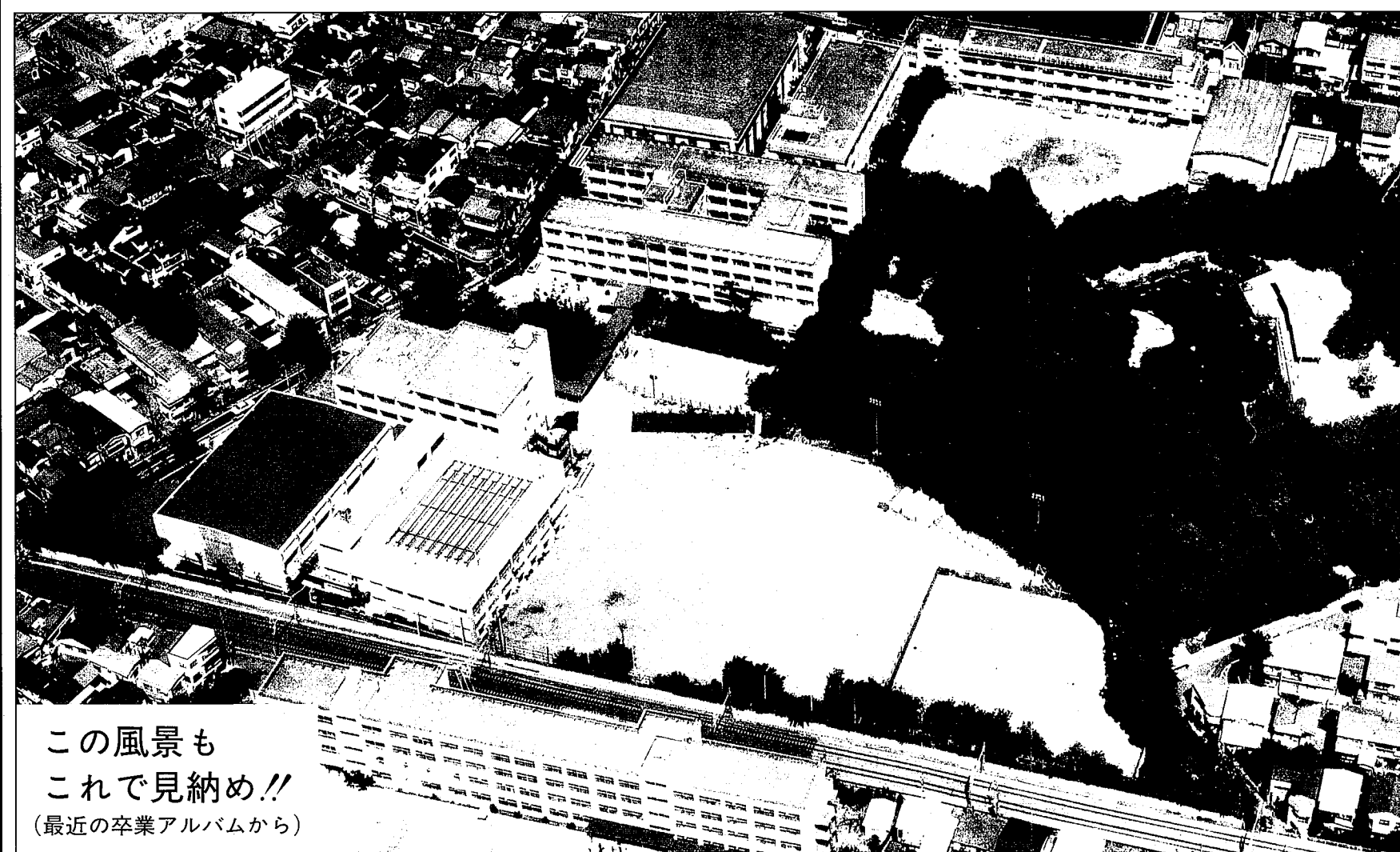
先の実感しております。先の実感しております。先の実感しております。先の実感しております。先の実感しております。

えをお願いいたします。

完成予想図



この風景もこれで見納め!! (最近の卒業アルバムから)



同期会だより

同期会を終えて (昭和43年度卒)

平林 広子(内村)

平成七年の梧桐会報に「同期会をめざして」という内容の記事を掲載して頂きましたが、残念乍ら住所の連絡をくれた人は、わずか数人でした。これではとても同期会は難しいかなと思っておりましたが、昨年の恒例三・Bクラス会にいつもと違ったメンバー数人が加わってくれました。その中に、十数年前に同期会の幹事をしていたバレー部の柴田君がいました。期待通り、自己紹介の挨拶の時に同期会開催を提案してくれて、各クラスの幹事がバタバタと決まりました。

幹事を開く

四ヶ月後、待ちに待った幹事会が開かれ、最初の一歩が...

幹事の皆さんに、各クラスの名簿作りをお願いし(電話での追跡なので、電話代も大分かかった事とします)、なんと三分の二にあたる約二百名程の住所が分りました。

場所が決まる

五月十二日、品川プリンスホテル内「品川大飯店」に於いて開催する事に決まりましたが、卒業後二十七年が経っており、どれくらい参加者があるか皆目見当もつかず、七十名程度を予定。



乾杯！ 音頭は鹿俣先生

三次会は

こんな時、頼りになる菊川さん(サッチ)の出席です。三次会は、居酒屋「孫悟空」に場所を移し、ほとんどの人がそのまま流れる事になりました。九時を過ぎましたが、まだまだ帰らないぞ、といった雰囲気。

四次会に突入

ついに四次会に突入。カラオケ「山手線」に移動。一部屋に三十数名が無理遣り入り、座れない人もいろいろな飲み、歌い、勿論これも冷房など効きません。十一時半、名残惜しみなか、今回はひとまずお開きです。



会を終えて

思いがけず、多くの方が出席して下さい、盛会のうちに終わる事ができ、大変に残念な会となりました。又開催をとの声も多く、次回は三年後(平成十一年)と決まりました。今回欠席の方も、次回は是非、出席して頂きたいと思っております。そして今回、各クラスの幹事

特に、総監督の柴田君には発起人となって頂き、他クラスの方へも連絡して、多くの参加者を集めて頂きました。又、菊川さんには会場探しをはじめ、会計(皆さんの会費を預かり、飲食もできず、トイレの中でお金を数えたり、との苦勞があったそうです)等雑務のリーダーとなって頂きました。



平田先生 矢野先生 坪田先生



おじさんもおばさんも昔話に花が咲いている

寄付のお願い

一口500円として、次の方法でお送り下さい。同窓会の当日も受付けております。
郵便振替 00170-0-614506
(加入者名 大崎高校梧桐会)

梧桐会事務局開設!!

このたび梧桐会では、同窓会事務局を開設しました。これまで住所変更等の連絡を学校宛にお願いしておりましたが、郵便はともかく電話での連絡が大変多く、教職員の皆様にも多大のご迷惑をおかけしました。また、電話連絡のきまりごともなく、旧姓や卒業年度もわからず名簿訂正で苦勞してきました。

そこで、渡部副会長宅に事務局を設置しました。と言いましても、留守番電話付FAXが1台あるだけですが、これがこれから威力を発揮することと思います。

住所変更のご連絡をいただく場合、以下の項目をお願いいたします。

- ①卒業年度(たとえば昭和51年3月の卒業ならば昭和50年度卒業となります)と3年次のクラス(わからなければ結構です)
- ②氏名(旧姓も)
- ③旧住所(電話では省略可)
- ④新住所(郵便番号から)
- ⑤(新)電話番号(こちらからご連絡することもあります)

の5点です。電話では以上のことを留守電に入れて下さい。はがきもしくはFAXの方が文字・数字に関する誤りが少ないと思いますので、よろしく願います。

もちろん住所変更以外でもご活用いただきたいと思っております。梧桐会へのご意見・ご希望など、また会報の感想や原稿をお送りいただくなど、何でも結構です。

〒146 大田区多摩川2-24-6-615 渡部良彦方 梧桐会事務局
TEL/FAX 03-3756-7114

なお、事務局ではこのたびパソコンを導入いたしました。今後は名簿の管理を事務局で行っていく予定です。その方面に詳しい方、お手伝いしていただける方、ご連絡下さい。あわせて、会報の編集委員も募集いたします。紙面と一緒に考えて下さい。お電話お待ちしております。

金買たより

御真影を守って 散った友

野村 周子(籠尾)
(昭和十九年度卒)

故郷の高知へ帰って来てから、早五十二年になります。その間、大崎高校梧桐会からは、何時もきちんと会報を送って戴き、有難うございます。

私達昭和十九年度の卒業生は、品川高等実践女学校の四年生として、田中航空計器へ学徒動員されて、一年間働き、当時私が隊長をして居りました田中隊の中に、はじめ、おとなしくて、いつもにこにこしている可愛い友達がおりました。

ところが、梧桐会報からの住所録に名前の上に黒丸がついていたのです。どうして亡くなったのだらうと気にかかりながら何時の間にか五十年と云う年月が流れて行ってしまいました。そしてやっとその人が空襲でなくなったとわかったのです。当時の東京では無



田中計器玄関前で 昭和20年2月

うか。梧桐会の皆さんの中に、丁度十五、六才のお子さんをお持ちの方もいらっしやることでした。後輩の皆さんは第二次世界大戦は歴史の中で習った事と思ひます。けど、此の不幸な戦争の為に先輩が無念な死を遂げたことと云うことを知って貰いたいと思ひます。写真は当時の女学生の姿です。此の中に亡くなった友達

55才の思い出の きれはし

久富 靖弘(昭和34年度卒)

突然の梧桐会々報の投稿依頼に困惑し、お断りを決め込んでいたが、留守中に再依頼を受け、せつかくの御依頼であるのだからと思直した次第である。何故とまどったかという、卒業後母校には一度のみの訪問、梧桐会には参加のため無く、とても会員とは言える筈は無く、まして会員だなど出せるものではないと思つたからである。

こんなことでもない高校生時代を思い出すこともないであらうと執筆の御指名に感謝しつつ思い出を記してみた。

昭和32年入学、35年卒業の我々高校生の頃は高度成長時代の始まりであり、神武景氣の家庭電化時代到来でテレビ等が家庭に増えていった時代であった。東京の人口が世界一になり、巨人軍の長嶋がプロ入りし新人王を取り、そして皇太子(平成天皇)の世紀の御成婚と続いた3年間であった。

巨人ファンであった小生は学校を何かの理由でつけ抜け出して後楽園球場へかけつけ、川上に替る長嶋の活躍を見た。最後は大崎高校の益々の発展を祈ります。

教室の黒板に級友の誰かが大きな字で「美智子さん」と書き、皆で喜んで事などは書き記している。これらは世相の一例だが、日本が大きく成長していく勢いが確かに感じられ、企業は働き手を求め我々若者に期待していた時代であったと思う。

こんな背景の中で学校、学業はどんな状況であったか。大崎高校の校舎は木造2階建ての3棟があり、2棟は職員室、図書室や特別室等の短い建屋で、真中の長い建屋が我々の教室であり、何等中学校と変わりがなかった。唯一違う点といへば、上履不要の土足で歩いたこと、やはり中学校とは違ふのだと感心した。

この校舎をはじめ当時のものなどの位残されているのかというに母を訪ねてみた。級友の一人と38年振りに会う約束をしているが、社業に明け暮れ、今迄本当に学校、学友、先生との接触に淡白であったと55才になって気が付き、反省の念にかられている。川上に替る長嶋の活躍を見た。最後は大崎高校の益々の発展を祈ります。

或る卒業生のその後

角 紀男(昭和47年度卒)

私が大崎高校を卒業したのは、昭和四八年三月のことです。高校の三年間は勉強もクラブ活動も中途半端に終わり、当然の如く一浪を余儀なくされました。

中学のころからの鉄道マニアでちよと蒸気機関車が消え去ろうとしていた時期でもあり、休みの都度、夜行列車を利用して福島方面、新潟方面や甲信方面に出かけては写真を撮影したり、列車の走行音を録音することに熱中していました。

それはそれで悔いのない生活ではありましたが、中学高専時代の勉強というものは、大学で専門教育を学んだり、社会生活をしていく上で必要とされる思考法を身に付けた、脳の思考回路の鍛練のために不可欠なものではないかと思つたので、今になって反省しているところだ。

そんな私も将来は検察官になりたいという大それた希望を抱いており、進路指導の際、担任の中山先生(地学担当)にその話をすると、「司法

試験」という難関があり、お前の成績では無理だと一蹴された覚えがあります。そして、大学に入ってからも鉄道研究会に所属して相変らず九州(北海道)と蒸気機関車の牽引する列車を追い求めていたのです。

平成八年度卒業生 進路状況

(四月十一日現在)

進学	短期大学	就職
四年制大学 東京都立 一 関東学院 神奈川工業 二 北里 国士館 四 昭和三女子 淑徳 四 昭和三女子 専修 一 高千穂商科 多摩 一 玉川 千葉工業 一 中央学院 鶴見 二 帝京 桐蔭学園横浜 一 東海 東京経済 一 東京国際 東京情報 一 東京理科 東洋 一 二松学舎 日本 二 法政 四 明海 一 明星 一 立正 二 ルーテル学院 一	短期大学 神奈川 一 鎌倉女子 川村 一 慶應義塾看護 国際 一 国士館 駒澤 二 駒沢女子 相模女子 一 産能 四 湘北 一 昭和女子 三 聖徳 一 調布学園 鶴見大学女子 二 東海 東京家政 一 東京成徳 東京女子体育 二 東京立正女子 一 東洋三 一 東横学園女子 四 日本女子体育 二 富士 一 文化女子 七 文教女子 一 北海道文教 一 横浜女子 三	CAMブレイン 大日本印刷 太陽テリアル メイクアップ アカクラ アザレーメイド(鶴東工業 カドヤ サミット カネボウ化粧品 ミヤマ電器 ライフコーポレーション ワコール クレセント 庄太郎 医療法人社団進興会 精養軒 総合警備保障 トンジンアオレーションズ 国家公務員

編集後記

◇現在四月十八日午後七時。去年より一日早く、母の日が、母の日は去年より一日早いわけであるからして、半日早いだけである。それにしても今年も暖かいね。四月九日に大崎へ行ったらその日は入学式で、桜はもう咲いていないと思つていたら、何とまだ咲いていました。木は二本でした。記念に写真を撮って来ました。

◇梧桐会報43号をお届けしました。職員とよりと会員とよりでは原稿の依頼が例年より遅れてしまし、四月に入ってからで一点しか届かず、あわてて催促の電話をしまし、半ば強制的にお願いした感じになってしましました。ご迷惑をおかけしました。ここにお願い申し上げます。が、しかお詫び申し上げます。こちらが発行できない。こちらの立場もどうかご理解下さい。◇同期会の報告も恒例となつてきました。今回は昭和43年度卒業生の同期会でした。他にも同期会を開いていると思ひますので、ぜひ事務局へご連絡下さい。そして会報でその報告をしていただき、名簿も一部お送り下さい。3面で目録も発行したいと思つております。会員の皆さんと事務局との連絡をもっと密にしまし、ね。(なべちゃん)

生涯の友にめぐり会えて

原 久子(川澄)(昭和41年度卒)

在親しくお付き合いしている友人が、その当時にめぐりあつた方達です。若い時からです。大きな相談事まで出来るようになってはならない友人達です。十一年前に北海道に移住したたのでお会いする機会が少なくなりましたが、いつの日か新しく生まれ変わった母校を友と田園都市線(現大井町線)に乗って訪れてみたいと思つた田島貞雄先生の二健在がこの会報で判り、嬉しく思いました。

最後になってしまいました。が、梧桐会の幹事の皆様の日頃のご尽力に深く感謝申し上げます。

JR「海峡号」の車内で

